

『牛乳パックでつくって遊ぼう』

廃材を使っていろいろつくってみよう。何かをつくらせようとしなくても、子どもたちは「こうしてみよう」「〇〇みたいになった」と、自由にどんどんつくっていく。廃材（廃品）は手に入りやすく、ごっこ遊びに使う・つくり込む・つくったものを友達と合体させるなど、幅広く遊べる素材である。

◆ 身近な廃材

例えば、お菓子やティッシュなどの空き箱・ラップやペーパーの芯・紙皿・紙コップ・カップ類・ストロー・割り箸・スチロール皿・包装紙・チラシ・新聞紙・ダンボール箱・梱包材（プチプチ）など

◆ 牛乳パックの特性 ※下線のあるものは見本あり

① 四角い箱の形になっている

乗物、建物、動物、ロボット、家、鉛筆立て、入れ物（ハサミ・縄跳び・コマ、など）・虫かご・ままごと道具など

② 素材が丈夫。厚みがある

帽子（お面）の土台・チケットやお金・描いた絵人形の台紙・ベルト・手裏剣・ぶんぶんゴマ

③ 水に強い

船・じょうろ・シャワー・いかだ（ビート板）・筆洗いなどのミニバケツ・花瓶など *一緒に使う素材も水に強いものを選ぶ（ストロー・ビニール・カップ類、など）

④ かさばるけれど軽い

ままごとのついたて（中に新聞紙を詰めたり、二つを重ねたり）
大きなものをつくっても軽いので、子どもたち自身が持ち運びしやすい。

※大切なことは・・・

- 幼児のこれまでの育ちや実態を踏まえ、適宜、提示・提案するためには、その廃材の特性を理解してから使用することが大切である。
- 材料が同じで作り方のパターンがあることで、遊びのイメージが膨らみやすい、幼児同士でも伝え合いやすい、また、他者との違いがよく見えることで、友達のアイディアを取り入れやすく、自分なりに工夫しやすいという点がある。幼児は、興味・関心をもった対象に、主体的に関わりながら、人との関わりを通して、思考力が育っていく。

◆ チョキン！ 切れた！！ “ハサミ”

子どもたちの「使ってみたい」「やってみたい」という気持ちを大切に、無理なくハサミを使えるようにする。どんな道具でも、危ないと遠ざけるのではなく、きちんと使い方を教えていくことが大切。また、使い方を間違えると危ないということも伝える。そして使い始めたら、常に正しく使っているか等の見守りを忘れずに。

ハサミは、紙を自由に切ることができる楽しさをもっている。「練習・訓練」にするのではなく、好きな形を思い思いに切って、のびのびと自己表現できる「楽しい遊び」の活動にしていくとよい。

<ハサミの持ち方と使い方>

ハサミは刃物なので、正しく持って使えるようにすることが重要。持ち方を細かく注意するというよりは、切りにくそうだったり、危なかったりしたときに、「こうするとよいよ」と教える。そして「切れた」という喜びや実感を一緒に受け止める。

- 子ども用を選び、手の大きさに合ったもの。左利きの子には左利き用のハサミがある。
- 人差し指を前に出して、しっかり柄を抑える。安定性が増し、容易に力加減を調整できる。
- 初めてハサミを使う時は、一人一人丁寧に指導することが大切。場合によっては、保育者が手を添えて一緒に切ってみるとよい。
- 振り回したり、刃先を人に向けたりしない。ハサミの持ち歩きをしない。ポケットに入れたままにすると危険。人に渡すときは刃の方を持って手渡す。

<ハサミの教え方>

- ハサミの刃をくちばしに見立て、パクパク動かして使うようにする。
- 保育者が実際に使ってみせて見本を見せる。
- 開閉1回で切り落とせる幅の紙を準備し、切る経験をする(1回切り)。その後は大きい紙を使い、刃を完全に閉じてしまうのではなく、何度も刃を開きながら切り進めていく(連続切り)。
- 慣れてきたら、折り紙や色画用紙などを、線に沿って切る・切り分ける・切り抜く・紙をいろいろな形に切って遊ぶ活動などに発展させてみる。
- 使っていく中で、厚いものを切るときはどこで切るとよい、形を切り抜くときは、紙を動かして切るとよい…ことを知らせていく。
- 紙を持つ手を間違えて傷つけないように、少しずつ持つ位置をずらしていくことを知らせる。

◆ 夢の道具 “ステープラー”

自分でくっ付けたり、つなげたりすることは、自分のワクワクをどんどん広げていく。偶然切れた三角の形は、「お山みたい」。もう一つつくって組み合わせたら、「ちょうちょうになった」。すぐ手に持ってヒラヒラ遊びたいけれど、糊でくっ付けていたら乾くまでに時間がかかる。

- 瞬時にとめることができ、乾燥時間が必要ないのが特徴。思ったことがすぐ形になり、子どもたちにとって夢のような道具。最初は難しくても、繰り返し遊ぶうちにコツをつかみ、自在につかえるようになってくる。その達成感を大切に、何度も繰り返し、《ステープラーと仲良くなる》ような活動につなげていく。
- 細長く切った紙をつなげるシンプルな活動から、慣れてきたらハサミで切ってつなげる活動にするとか、紙同士をつなげるだけでなく、立たせることもできる。立体的なものもつくりやすいので、どんどん遊びの幅が広がっていく。
- 指を挟んだり、針が折れ曲がった部分で指や手などをひっかけたりなどの怪我に注意することが大切。ひっかけないようにテープを貼る・芯の部分をつぶすなど配慮する。

その他・・・

- 糊や、木工用ボンド、セロハンテープなど、子どもたちがいろいろなものづくりを体験する中で、例えば、木工用ボンドは、少量で、しかも短時間で接着することができるので、子どもたちが扱いやすい。保育者自身がものをつくり上げるために必要な道具や材料の使い方を学んでいくことが大切である。
- 子どもたちには、道具や材料を実際につくっていく工程の中で、それぞれの基本的な使い方を学んでいくことができるような造形内容や環境の配慮をしていくことが大切である。
- 廃材を集める時は、子どもたちが扱うということを考慮する。汚れているものは使用しない。牛乳パックは、よくすすいで乾かしてから使用する。そして、遊んだあとは、よく手を洗うようにする。

【結果ではなく過程を大切に！】

幼児期の造形活動とは、特別な芸術活動や立派なものを作る為の時間ではなく、日々の生活の中にある遊びの一つです。

常に、「いーこと考えた!」と発想をして楽しんでいる子どもたち。様々な素材や道具でたくさん遊び、存分に自分の思いを試します。そして先生たちも、その探索や発見に同じ目線で驚き、共感することがとても大切です。

子どもたちと一緒に、創造的な時間を楽しみましょう。

・・・「美育文化ポケットより一部抜粋」

【幼稚園教育要領】・・・一部抜粋

<表現>

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする

1 ねらい

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

2 内容

- (1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。
- (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

【保育所保育指針】・・・一部抜粋

<表現>

1 ねらい 幼稚園教育要領と同じ

2 内容

- (1) 水、砂、土、紙、粘土、など様々な素材に触れて楽しむ。
- (2) 保育士等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。
- (3) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。
- (4) 生活の中で様々な出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- (5) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (6) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする。
- (7) いろいろな素材や用具に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (8) 音楽に親しみ、歌を歌ったり簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。
- (9) かいたり、つくったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり、飾ったりする。
- (10) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。